

1. (1) C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, $\text{rot}(\text{grad}(f)) = \mathbf{0}$ を示せ.
 (2) \mathbb{R}^3 上の C^∞ 級ベクトル場 V に対し, $\text{div}(\text{rot}V) = 0$ を示せ.
2. 次のベクトル場 $V: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3$ について, $V = \text{grad}(f)$ となる C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ は存在するか.
 (1) $V(x, y, z) = (y + z, z + x, x + y)$
 (2) $V(x, y, z) = (y^2 + z^2, z^2 + x^2, x^2 + y^2)$
3. $S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + y^2 + z^2 = 1, z \geq 0\}$ とおく.
 (1) S は境界つき曲面であることを示せ. ∂S を求めよ. (例 90 を参照せよ)
 (2) $p \in \partial S$ のまわりの局所座標を一つ求め, それに対し $n_1(p) \in T_p S$ を求めよ.
 (3) S の向き $n: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を, $n(p) := p (\forall p \in S)$ で定める. n が誘導する ∂S の向きを求めよ.
 (4) (3) の向きについて, \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $V(x, y, z) := (-y + z, z + x, z)$ に対し, $\int_{\partial S} V \cdot dl$ を計算せよ.
 (5) (4) の V に対し $\text{rot}V$ を求めよ. $D^2 := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 \leq 1\}$ と $\varphi: D^2 \rightarrow S, \varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$ に対し, $\int_{D^2} \text{rot}V(\varphi(s, t)) \cdot \hat{n}(s, t) ds dt$ を計算し (3) と比較せよ.
4. $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ を $f(x, y, z) := z + x^2 + y^2 - 1$ で定義し, $S := f^{-1}(0) \cap \{z \geq 0\}$ とおく.
 (1) S は境界つき曲面であることを示せ. ∂S を求めよ.
 (2) S の向き $n: S \rightarrow \mathbb{R}^3$ を $n(p) := \frac{\text{grad}(f)(p)}{|\text{grad}(f)(p)|}$ で定義する (補題 60 参照). n が ∂S に誘導する向きを求めよ.
 (3) 前問 (4) の V に対し, $\int_S \text{rot}V \cdot dS$ を計算せよ.
5. 向き付けられた境界つき曲面 $(S, n), (S', n')$ は $\partial S = \partial S'$ をみたし, さらに $p \in \partial S = \partial S'$ に対し $n(p) = n'(p)$ をみたすとす. このとき $\int_S \text{rot}V \cdot dS = \pm \int_{S'} \text{rot}V \cdot dS$ であることを示せ. 符号はどのように定まるか?
6. 閉曲面 S と \mathbb{R}^3 上のベクトル場 V に対し, $\int_S \text{rot}V \cdot dS = 0$ を示せ. (ヒント: S は境界を持たない)
7. $S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 + y^2 = 1, |z| \leq 1\}$ は $\partial S = \{(x, y, \pm 1) \in S\}$ であるような境界つき曲面であり, $n(1, 0, 0) = (1, 0, 0)$ となるような S の向きが ∂S に誘導する向きは $I_\pm(t) := (\cos(\mp t), \sin(\mp t), \pm 1)$ で表されることを示せ.
8. Stokes の定理における「コンパクト」(\mathbb{R}^3 の有界閉集合であること) という条件は必要である. ここでは有界性が必要であることを確かめよう. $S := \{(x, y, 0) \in \mathbb{R}^3 \mid y \geq 0\}$ とする.
 (1) S は \mathbb{R}^3 の閉集合だが, 有界でないことを示せ.
 (2) $\mathbb{H}^2 := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid t \geq 0\}$ を上半平面とよぶ. $\varphi: \mathbb{H}^2 \rightarrow \mathbb{R}^3, \varphi(s, t) := (s, t, 0)$ は, 各 $p \in S$ の近くの局所座標であることを示せ. また $\partial S = \{(x, 0, 0) \in S\}$ であることを示せ.
 (3) S の向きを, $n(p) := (0, 0, 1) (\forall p \in S)$ となる法ベクトルで定める. このとき, (2) の座標は向きを保つことを示せ. また, $l: \mathbb{R} \rightarrow \partial S, l(t) := (t, 0, 0)$ は n から誘導される ∂S の向きを表すことを示せ.
 (4) \mathbb{R}^3 上のベクトル場 $V(x, y, z) := (e^{-x^2}, x, 0)$ に対し, $\int_{\partial S} V \cdot dl$ を計算せよ. “ $\int_S \text{rot}V \cdot dS$ ” は有限か?
9. $S \subset \mathbb{R}^3$ を曲面とし (境界はあってもなくてもよい), $\varphi: U \rightarrow S$ を局所座標とする. $\varphi(U)$ 上の曲線 $l: (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow \varphi(U)$ が与えられたとき, U 上の曲線 $m: (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow U$ を $m := \varphi^{-1} \circ l$ で定義する.
 (1) $m(t) = \begin{pmatrix} m_1(t) \\ m_2(t) \end{pmatrix}$ と書く. $\frac{dl}{dt}(t)$ を $m'_1(t), m'_2(t)$ と $\frac{\partial \varphi}{\partial s}(m(t)), \frac{\partial \varphi}{\partial t}(m(t))$ を用いて表わせ. (7/22 の講義で使います)
 (2) $p = l(0)$ とおく. $\frac{dl}{dt}(0) \in T_p S$ であることを示せ.
10. 形式的に $\nabla := (\frac{\partial}{\partial x}, \frac{\partial}{\partial y}, \frac{\partial}{\partial z})$ とおくととき, 次の形式的な「等式」を示せ.
 (1) \mathbb{R}^3 のベクトル場 V に対し, $\nabla \cdot V = \text{div}V$
 (2) C^∞ 級関数 $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$ に対し, $(\nabla \cdot \nabla)f = \Delta f$ (演習 12.1 参照)

(提出の必要はありません)

補足：境界に導かれる向き（定義 92）について．

また向きに関してややこしい話が出てきて辟易しますが，Stokes の定理を定理 95 の形で成り立たせるためには，向きのついた曲面 (S, n) に対して， ∂S の向きを正しく定めないといけません．それが定義 92 の「 n が ∂S に導く向き」です．定義 92 と同じ内容を，次のようにも言い換えられます（各自確かめてください）：

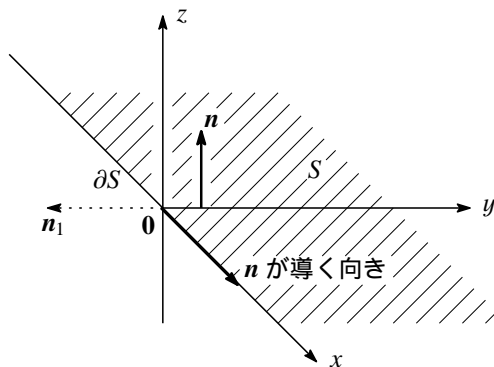
(S, n) を向きづけられた境界つき曲面とし， $p \in \partial S$ のまわりの局所座標 $\varphi : W \rightarrow \mathbb{R}^3$ で向きを保つものを取ります． $U := W \cap \mathbb{H}^2$ とおくと $\varphi(U) \subset S$ で， $\forall a \in U$ に対し

$$(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(a) = k \cdot n(\varphi(a))$$

をみたす定数 k が存在します． φ が向きを保つとは，任意の $a \in U$ に対し $k > 0$ となるということです． $\varphi(a) = p$ となる $a \in U$ を取るとき， $p \in \partial S$ であることから， $a = (s_0, 0) \in \partial \mathbb{H}^2$ という形です．十分小さい $\epsilon > 0$ に対し， $I : (-\epsilon, \epsilon) \rightarrow \partial S$ を $I(t) := \varphi(t - s_0, 0, 0)$ とおけば， I は n が導く ∂S の向きを表します．

さらに言い換えると， n が導く ∂S の向きとは，上のような座標について $\partial_s \varphi(a)$ の方向である，とも言えます．

特別な場合として， $S := \{(x, y, 0) \in \mathbb{R}^3 \mid y \geq 0\}$ について考えましょう（下図参照）．平面 $z = 0$ を xy 平面とみなし，その中に含まれる上半平面を S としたわけですが．境界 ∂S は x 軸です．向きを $n(p) := (0, 0, 1) (\forall p \in S)$ ，つまり z 座標の正の方向と定めたとき， n が ∂S に導く向きは， x 軸の正の方向です．



7/15 の問題 9. (2), (3) あたりも参照してください．

より平たく，次のようにも言えます： n が指し示す向きが「上」になるように ∂S 上に立つことを想像してください． n が導く向きに沿って ∂S 上を歩くと，左手側に曲面が見えます．右手側は曲面が途絶えています．

2次元の場合に出てきた「領域の境界としての曲線の向き」との共通点に気づくでしょうか．

向きは数学の至るところで問題を引き起こすもので，避けては通れない問題です．「幾何入門」の場合は，積分の値の正負を決めるためにどうしても必要なものです．

幾何入門レポート問題 13 (2016 年 7 月 15 日)

担当：境 圭一

$S := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z \geq 0\}$ とし, S の向きは $\mathbf{n}(p) = p$ ($\forall p \in S$) で与えられるとする. $V(x, y, z) := (ye^z, -xe^z, z)$ に対し, $\int_S \operatorname{rot} V \cdot dS$ を計算せよ.

(7/22 の 3 限開始時まで提出してください)

http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/16_geometry/16_geometry.html